

越谷の文化財・史跡・伝統



いにしえの

越谷を伝える

市内には、いにしえの人々の生活や文化、信仰などを今に伝える貴重な資料が有形・無形を問わず数多く存在し、中には、その歴史的な価値を、国や県から指定された文化財や史跡があります。

国…国指定文化財

登…国登録文化財

県…県指定文化財



国

越ヶ谷のシラコバト

江戸時代に外国から輸入されたといわれる鳥で、埼玉県のマスコット「コバトン」のモデルにもなっています。近い将来における野生での絶滅の危険性が高いものとして、埼玉県レッドデータブック絶滅危惧ⅠB類に分類されており、国の天然記念物に指定されています。

国

木造地藏菩薩立像

浄山寺の本尊。肉付豊かな体躯、深く鋭い衣文表現に平安時代前期の特色がよくみられ、定型化されない彫り口から9世紀前半に遡る可能性が考えられます。

関東でも屈指の古さを誇る木彫仏として、平成28年8月に国の重要文化財（美術工芸品・彫刻）に指定されました。



登

木下半助商店

市内の日光街道の中ほどに位置する、明治時代後期から大正時代にかけて建築された道具店です。古くは参勤交代の行列を相手に、旅道具の売買を行う道具屋として商いをしていたと伝えられています。表通りに面する店舗のほか、土蔵、石蔵、主屋、稲荷社が現存し、明治期の越谷における商店の面影を伝えています。平成27年11月、市内初の国の登録有形文化財（建造物）に登録されました。



県

下間久里の獅子舞

埼玉県東部および千葉県西部の獅子舞行事の源流とされています。例大祭は毎年7月の第3日曜日に行われ、笛や太鼓の音に合わせて太夫獅子、中獅子、女獅子3頭1組が下間久里の香取神社の境内や地区内の家々で家内安全を祈る舞などを披露します。

県

北川崎の虫追い

北川崎の川崎神社において毎年7月24日に行われる行事で、江戸時代から続いています。麦わらを束ねたたいまつに火を灯し、稲につく害虫を追い払い、豊作を祈願するもので、鐘や太鼓を鳴らしながら「稲の虫ホイホイ」と声を合わせ田んぼのあぜ道を行進します。



県

蒲生の一里塚

一里塚は、江戸時代に街道沿いに一里（約3.9km）ごとに設置され、道程の目標や旅人の休息の場などに利用されていました。蒲生の一里塚は、県内の日光街道沿いに残る唯一の一里塚です。





県

木造伝正観音菩薩坐像

鎌倉時代後期の作で、像高は84cm、檜材の寄木造です。顔のつくりと服装が、鎌倉時代後期の関東地方に流行していた宋風美術の影響をうかがわせます。

県

平田篤胤仮寓跡

ひらた あつたね
平田篤胤（1776～1843）は、江戸時代後期の国学者で、荷田春満、賀茂真淵、本居宣長とともに国学しゅうしんの一人として位置付けられています。平田篤胤は越ヶ谷と深い関わりがあり、3度目の夫人を越ヶ谷から迎えているほか、越ヶ谷の山崎家から援助を受けていました。



県

久伊豆神社のフジ

越ヶ谷久伊豆神社のフジは、天保8年（1837）に越ヶ谷町の住人、川鍋国蔵が下総国流山から樹齢50余年のフジを舟で運び植樹したといわれ、樹齢200年を超える古木といわれています。



県

廿一仏板石塔婆

板石塔婆のうち種子（梵字）二十一仏を刻んだ板碑は、全国的にも珍しく、貴重なものです。増森にあるこの板碑には、天正3年（1575）8月の銘があり、山王二十一社の本地仏をあらわした種子が刻まれています。



◆文化財一覧

区分・種類	名称	所在地
国指定文化財		
彫刻	木造地藏菩薩立像	野島32(浄山寺)
天然記念物	越ヶ谷のシラコバト	越谷市周辺
国登録文化財		
建造物	木下半助商店	中町(個人蔵)
県指定文化財		
彫刻	木造伝正観音菩薩坐像	増林3818(林泉寺)
考古資料	廿一仏板石塔婆	増森(個人蔵)
無形民俗文化財	下間久里の獅子舞	下間久里(香取神社)
	北川崎の虫追い	北川崎(川崎神社)
史跡	蒲生の一里塚	蒲生愛宕町876
旧跡	平田篤胤飯寓跡	越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
天然記念物	久伊豆神社のフジ	
市指定文化財		
建造物	大聖寺の山門	相模町6-442(大聖寺)
	旧東方村中村家住宅	レイクタウン9-51
絵画	斎藤豊作遺作「風景」 鳥文斎栄之筆 「瓦曾根溜井図」	東越谷4-9-1 (市立図書館)
	安国寺の円空仏	大泊910(安国寺)
木造阿弥陀如来立像		
彫刻	木造会田七左衛門夫婦坐像	七左町7-278(観照院)
	木造地藏菩薩立像	瓦曾根1-5-43(照蓮院)
	木造釈迦如来涅槃像	越ヶ谷2549(天嶽寺)
	香取神社の彫刻	大沢3-13-38(香取神社)
	西福院の円空仏	谷中町3-90(西福院)
	銅造五智如来立像	北越谷4-8-5(浄光寺)
	弘福院の円空仏	北越谷1-21-26(弘福院)
	木造阿弥陀如来坐像	大松60(清浄院)
	木造阿弥陀如来坐像	
	銅造阿弥陀如来立像	増林3818(林泉寺)
	工芸品	野島浄山寺の大鯉口
懸仏		越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
林泉寺の香炉		増林3818(林泉寺)
古文書	北条氏繁掟書	相模町6-442(大聖寺)
	伊奈備前差添書	越ヶ谷本町(個人蔵)
	本陣資料一括 (福井家文書)	大沢 (県立文書館寄託)
	浄山寺の朱印状	野島32(浄山寺)
	代々の朱印状	平方249(林西寺)
	寺領寄進朱印状	宮本町2-54(迎攝院)
	観智国師書状	大泊910(安国寺)
	西方村旧記	東越谷4-9-1 (市立図書館)

区分・種類	名称	所在地
市指定文化財		
考古資料	建長元年板碑	御殿町3-36
	文明3年十三仏板碑	増林2687(勝林寺)
	文和3年六字名号板碑	大成町(個人蔵)
	貞治6年七字題目板碑	大道(個人蔵)
	天文22年 弥陀三尊圖像板碑	大成町(個人蔵)
	承応2年庚申塔	大成町(個人蔵)
	廿一仏板石塔婆	東町5-238(金剛寺)
歴史資料	徳川家康の夜具	相模町6-442(大聖寺)
	清蔵院の山門	蒲生本町13-41 (清蔵院)
	一乗院の建具	三野宮618(一乗院)
	会田家歴代の墓所	神明町(個人蔵)
	呑龍上人供養墓石	平方249(林西寺)
	平田篤胤奉納大絵馬	越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
	越谷吾山供養墓石	越ヶ谷2549(天嶽寺)
	窮民救済の碑	瓦曾根1-5-43(照蓮院)
	越巻中新田の 産社祭礼帳	新川町(個人蔵)
	越ヶ谷順正会関連資料	越ヶ谷4-2-1 (市役所。 一部市立図書館)
	三ノ宮卯之助銘の力石	三野宮333 (香取神社) 越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
有形民俗文化財	第六天の算額	下間久里(個人蔵)
	「観音堂の縁日風景」 絵馬	大泊104(大泊観音堂)
無形民俗文化財	越谷の木遣歌	越谷市木遣保存会
史跡	見田方遺跡	見田方遺跡公園周辺
	清浄院開山塚	大松60(清浄院)
	越ヶ谷吾山句碑	越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
旧跡	越ヶ谷御殿跡	御殿町
	千徳丸供養塔	瓦曾根1-5-43(照蓮院)
名勝	久伊豆神社社叢	越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
天然記念物	林泉寺駒止のマキ	増林3818(林泉寺)
	有瀧家のタブノキ	中町(個人蔵)
	ラクウショウ	越ヶ谷2566 (越谷アリタキ植物園)
	大聖寺のタブノキ	相模町6-442(大聖寺)
	浅間神社のケヤキ	中町7(浅間神社)
	中村家のイチョウ	東越谷(個人蔵)
	聖徳寺のイチョウ	北川崎18(聖徳寺)
	田中家のクスノキ	川柳町(個人蔵)
	森家のイチョウ	平方(個人蔵)
	中村家のクスノキ	大成町(個人蔵)

{ 越谷の伝承を歌う }

民謡は、唄の文句や歌われた場所から、土地の歴史や昔の習慣、人々の考え方や信仰と風習などを知ることができます。北海道の「ソーラン節」や沖縄県の「ていんさぐぬ花」のように、越谷市にも郷土の生活に結びついて伝承されてきた民謡が数多く存在します。寺社の祭礼や婚礼などの宴席、田植えなどの労働中など、さまざまな場面で歌われてきた民謡。現在も郷土芸能祭などで披露されている中から一部を紹介します。

右記の二次元コードから、「越谷の祝い唄」と「遣声・鳶かけ」を視聴できます。



越谷の伝承民謡

江戸時代、交通の要所であった越谷では、行きかう旅人からさまざまな唄が運ばれてきました。唄は人々に愛され、暮らしに寄り添いながら越谷の民謡として育まれましたが、昭和50年代には、越谷の民謡の多くが忘れられ、消えつつありました。

現在、郷土芸能祭などで披露されている越谷の民謡は、昭和50年代に越谷市出身の民謡師範が市内に長く暮らしている高齢者から採譜し、保存・伝承したものです。

越谷の祝い唄

(昭和54年 越谷市袋山 山崎アキ氏から江川麻裕美氏が採譜・編曲)

今日こちらに 招かれて 奥の間座敷を 見申せば
水仙花が 三つ咲いて 一つはこの座のお肴よ
二つはこちらの 上がり花 三つはヨーオ ヨーオエ
身上の上がり花

今日はこちらの だんなさま 朝日のさすよな 息子もち
夕日のさすよな 嫁もらい 七福神なる 孫をもち
末代長者で 暮らします さてはヨーオ ヨーオエ
めでたやおめでたい

■ 昔、婚礼やお祝い事は、式場やレストランではなく、自宅に人を招いて宴会がひらかれたものでした。招待された人々は、おめでたい言葉を唄にのせて、唄でその家のたたずまいをほめ、人をほめて、お祝いしました。

(資料提供: 越谷伝承民謡民舞保存会)

越谷の木遣

越谷の木遣は、一説には江戸開府以降、関東地方を中心にとび職などの土木工事等に関わる職人の間で労働歌として発達した木遣歌が伝えられてきたものといわれています。棟上げ祝儀等に歌われ、主に久伊豆神社の祭りの練歌、山車の曳き歌として伝え

られてきました。

地歌、端物、流し物など、種類により5つに分類された23曲を組み合わせて歌います。

越谷の木遣歌は、平成2年に市の指定無形民俗文化財に指定されました。

■ 記号の意味： \sim …「木遣り」1人で歌う \sim …「側受^{か(わ)うけ}」みんなで歌う

やりこえ 遣声

\sim よおーいーやーあーりょうー

\sim えーえーえー よおーいーいーいーいーいーいー

■ いかなる木遣を歌うときも最初に歌う木遣歌で、地歌に分類されます。「やるよー」「いいよー」という意味の掛け声になっています。

鳶かけ

\sim おーおーおー

おーおーいーまーあーあー

だあーもーおーそー

\sim あーそーほーりゃー

よおーほいーよおーほいーね

\sim あーあーえーえーえーやあーあー

\sim あーやーれーこーりゃーねー

\sim ごーよーおーわーあーめーえーでー

めーでーたーのー

\sim あーやーれーこーりゃーねー

\sim わーかーまーつーうーうー

さーあーあーまーあーあーよー

\sim あーやーれーこーりゃーねー

\sim えーだーあーもーおー

さーあーかーあーえーえーえーてー

\sim あーやーれーこーりゃーねー

\sim えーえーえー はもーやーあー

しーいーげーえーるーうーえー

\sim あーこーりゃー

\sim あーそーほーりゃーはーれーわー

せーえーえーそーほー

ほーりゃーよーおーほーおーよー

いーさあーやあーあー

あーあー やあーあーあー

はーのーおーせーえーえーえー

えーえーえーやあー

はーらーやーれーこーりゃーねー

■ 鳶かけは流し物に分類されます。声を張らずに歌える流し物は道中物ともいわれます。道中とは、長い作業をすることをいい、祭りでは渡御や還御の行列の様に長い時間歌う時に歌われます。

[]の部分では、「御葉は目^め出たの若松様よ枝も栄えて葉も茂る」と歌っています。他にも、「峰の小松の雛鶴かけて谷の流れで亀あそぶ」など、さまざまなめでたい歌詞を盛り込み、全体を繰り返しながら歌います。

(資料提供: 越谷市木遣保存会)